

特集

おじさんも
おばさんも

全員合格目指して がんばれー！

＝北海道スキー連盟認定指導員養成講習検定会＝

広報部

今年で第6回を迎えた北海道スキー連盟主催の「認定指導員養成講習検定会」が、2月6日～7日までの2日間歌志内市かもい岳スキー場で開催されました。

今年も全道各地から48人の受検者が参加、2日間の理論と実技検定に熱き闘いを挑みました。

平成17年から開始されたこの養成講習検定会制度は、北海道スキー連盟独自の制度で、女性40歳、男性45歳以上、SAJ級別テスト2級以上の資格が必要で、受検者はスキーに対するすばらしい情熱を持った方々が多いと聞いて取材させていただきました。合格率も非常に高く、地区連行事にも積極的に協力してくれるところから、頼もしい戦力になっていると伺った。

そんな熱き挑戦者のおじさん、おばさん達に広報部が2日間、密着取材を試みた。

真剣！ 忘れないうちに！

6日午前、理論検定が行われる歌志内市公民館に到着。9時からの受付開始時間にはまだ、だいぶ時間があるのにすでに半数以上の受検者が受け付け付近に集まっている。思い起こせば40数年前、自分にも経験のあるこの緊張した雰囲気は、懐かしい気持ちと当事者で無い気楽さからか、自然と顔が緩んでいる自分に気が付きグット奥歯を噛み締める。

会場には子育てが終わったと思われる女性や、会社を定年退職し、ようやく自分の時間を持つようになったと見受けられる男性の受検者も多く、遅まきながら指導者を目指すという熱意と心意気が伝わってくる。

受付を終えた受検者に受検の動機などを聞いてみようかと思ったが、理論検定の前ということもあってみんなチョット緊張気味。声をかけて折角覚えた問題を忘れてしまったのは、恨まれると思い取材は控えさせていただいた。



阿部副本部長あいさつ



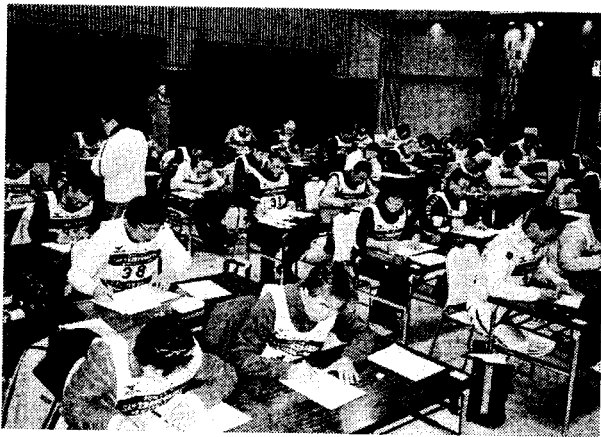
検定員の面々

9時30分から佐藤総務主任（SAJブロック技術員）の司会進行で開会式が行われ、最初に北海道スキー連盟教育本部阿部洋一副本部長から「皆さんのスキーにかける情熱を地域の活動にも活かし、スキーの普及発展に尽力して欲しい」と責任者挨拶があり、来賓として歌志内市長、かもい岳スキー連盟会長から歓迎と激励の言葉をいただき、続いて出口主任検定員（SAJ専門委員）から検定員・役員紹介があり、開会式は終了。引き続き10時から理論養成講習が始まり、出口講師のユーモアを交えた講習で会場にも笑

顔がこぼれ、和気藹々の雰囲気の中、講師の話
を聞きもらすまいと熱心にメモを取る姿は、学
生時代を彷彿とさせるようであった。



笑顔もこぼれる養成講習風景



検定開始！緊張感が高まる

11時から理論検定本番がスタート、今回の検
定会には、初の外国人受検者2名も挑戦、配ら
れた問題用紙に全員一心不乱に取り組んでい
た。

取材班は、試験会場の撮影もそこそこに静か
に退席し、一足先に実技会場のかもい岳スキ
ー場へと向かった。

勝負は実技で！

12時過ぎ、理論検定を終えた受検者達が続々
と山へ上がってきたが、みんな心なしか笑顔で
話をしている所をみると、理論の出来は上々
だったのか。昼食を取り、13時から16時まで各
班ごとに実技の養成講習が始まった。

マイナス14度という寒さの中、受検者達は模

範演技を見せる講師の滑りを真剣なまなざしで
追っていた。



実技の養成講習風景

7日検定当日、天候は曇り、前日より暖か
で絶好の検定日和となった。9時から11時20分
までの実技養成講習が終了。

11時30分、いよいよ本番が開始された。

最初の種目はトレーニングバーンを使って、
パラレルターン中回り、続いて大会コースの緩
斜面を使ってプルークボーゲン中回り、昼食時
間を挟んでパラ大回り、プルークターン中回り、
シュテムターン大回り、パラ小回りと全6種目
が終了。

15時過ぎ、全員ホットした表情でセンターハ
ウスへ戻ってきた。



検定本番！プルークボーゲン



パラレルターン大回り



ゴールで見守るギャラリーも心配そう

向上心の塊り集団

後は合格発表を待つだけである。武装解除？をしながらつろぐ受検者に取材を試みた。

ゼッケン1番の伊藤さん（北見・女性）に受検の動機を尋ねると「もっと上手になりたいので、その足がかりとしての一步です。子供達にスキーを教えたいので・・・」と向上心いっぱいの答えが。根室から受検の伊藤さん（女性）は山も雪も無い町なので、阿寒湖スキー場まで滑りに行っていると言う「家族全員がスキーをするので、上手になりたい一心で受けました。子供3人が地元のアルペン少年団に入っているので、子供に負けないように！」と女性からは向上心旺盛な一言が聞かれた。地元から受検のAさん（男性57歳）は「もっと上手になりたい。これからも勝負ですよ。」と力強い一言。

今回初の外国人受検者二人にも聞いてみた。

オーストラリアから来日して17年、日高町で

ラフティング会社を設立、日高で6年目を迎えるというコストロ ネイサンさんは、JSBAのスキー指導員資格を持つ実業家。「スキーの1級取得をきっかけに子供達にも正しいスキーを教えたいので、日本の資格が欲しかった。」と頼もしい一言。一緒に日高から受検した横山さん（男性59歳）は、新日高スキー協会会長。「会長になったこともあり、何とか資格を取って子供達やシニアの皆さんにスキーを教えたい。」と熱く語ってくれた。

もう一人は、ニセコから受検のジェフ マークスさん、ニセコヴィレッジのホテルに勤務、在日5年目ぐらいとか。母国のカナダでは、「スキーレベル4」の検定員資格を持つバリバリの現役。「毎日滑っています。日本の技術も勉強したいので受けました。お客様がどのレベルまで上達したいのか分からないと困るので、技術的にも研究したい。」と意欲的な一言。

「もし、二人が合格したら外国人としては、全国初の認定指導員ですよ。」と伝えると、目を丸くして二人で硬い握手！いよいよ発表の時。

全国初の外人認定指導員誕生！

16時、閉会式のためセンターハウス4階のミーティングルームに集まる受検者達は、チョット緊張の面持ちで会場へ。

講評 出口主任検定員



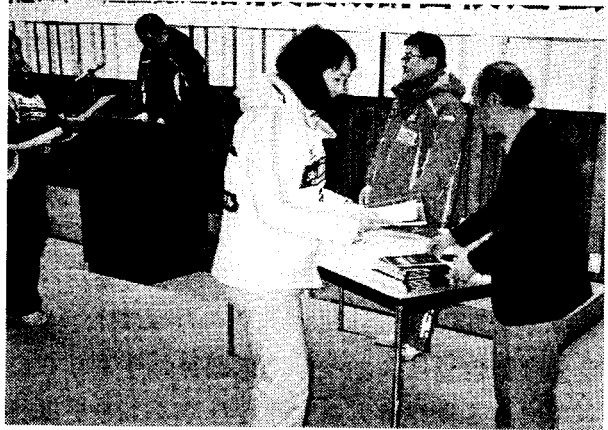
発表前の緊張！受検生たち

まず、道連教育本部阿部副本部長から「今後の皆さんのご活躍を期待します。」と挨拶があり、出口主任検定員から講評の後、合格発表となった。合格者の番号が呼ばれるごとに、拍手と歓声が上がり、あちこちで笑顔がはじける一方、ガックリ肩を落とす受検者もいて悲喜こもごもの会場内となった。今回は初の受検者となった外人さん二人も見事合格、仲間と一緒に喜びをかみ締めている様子。「全国初の外人認定指導員第1号ですよ。おめでとう。」と声をかけると、「アリガトウゴザイマス。後に続く人のためにもガンバリマス！」と力強い答えが返ってきた。



外人初の合格者
右 ジェフさん
左 コステロさん

今年の合格者は39人、合格率は83パーセントとなった。合格者は、阿部副本部長から認定証を、黒元検定チーフからバッチが、北海道スキー指導者協会からは、加藤副会長が一人ひとりにシュプールを手渡し合格を祝しました。



加藤副会長からシュプールの贈呈

合格者の皆さん本当におめでとうございます。

今後のご活躍を期待しています。

また、今回残念ながら合格とならなかった皆さん、来年こそ、今年の雪辱を期待しています。

2日間本当にお疲れ様でした。

シーハイル!!

